

成果報告書

カントの倫理的公共体概念を構成する三要素：最高善の実現へ向けて

報告者：中野愛理

研究背景・課題

本研究では、イマヌエル・カントの「最高善」概念について、「倫理的公共体」概念を分析することでその一端を明らかにした。最高善は、カントの実践哲学において純粋実践理性の究極目的とされ、人間の道徳的強さとしての徳と、その徳に釣り合う幸福とから成る。倫理的公共体とは、最高善へと至るために人類が現実にも創出すべき共同体である。従来倫理的公共体は最高善の一形態であるとみなされてきた(Pogge 1997)が、前者がその要素に徳のみを含む点で後者とは異なることは既に先の研究において解明した。(中野 2019)本年度に新しく取り組んだ問いは、両概念がどのような関係にあるのかということである。この問いに応えるためには、まず倫理的公共体概念の分析を行う必要がある。本年度の研究は主にこの分析に費やされた。

研究成果

本研究では、倫理的公共体を構成する三要素を分析し、その相互関係を解明した。この成果は三田哲学会で発表され[1]、同学会の発行する『哲学』149 号に査読を経たのちに掲載された。[2]

倫理的公共体は次の三要素からなる：「(A) 善を志向する人間を成員とする共同体である」、「(B) 教会の理念である」、「(C) 悪に対する対抗手段である」。

従来 A の要素のみが中心的に論じられ、それゆえにまた最高善と同一視される解釈が生じてきた。それは B の要素が経験的・偶然的であり、カント実践哲学の要求する純粋性を供給できないように思われたことも一因である。さらに C の要素も、行為者が定言命法に自律的に従うモデルではなく、外的環境の整備によって悪い行為を防ぐことを目指す点でカント倫理学の基本構想と相容れないように思われる。

以上について、本研究では以下の三点を主張した。第一に、A の要素はアприオリに理性から導出されうる。また、この要素には神の概念が不可避に含まれる。従って、A の要素は、「(A*) 神を元首とし、善を志向する人間を成員とする共同体である」と訂正される。第二に、A*は統制的理念として、この世界における特定の活動、すなわち教会の活動を可能にする。これは B の要素に対応する。第三に、悪い行為の可能性を減少させることは、人格

第 10 回(2021 年度)若手研究者研究助成

の道徳的完成へと近づくための手段として直接的に有効であり、したがって悪に対する対抗手段としても有効である。これは C に対応する。それゆえ、三要素の連関は次のように整理されうる。(A*)と(B)とは統制的理念とそれを目指す世界内での人間の活動という関係にあり、(B)の(A*)への漸近は同時に(C)として機能する。

倫理的公共体の諸特徴のこの内的連関が示されたことで、哲学的に軽視されてきた教会という要素が理論的一貫性をもって当該概念に帰属していることが明らかになった。また人間学的考察に基づいた(C)の要素も、(B)を介してアприオリな(A*)の要素と接続しうることが示された。

なお、本年度には以上の研究の他にカント哲学における目的論についての成果[3]と、最高善に関する成果[4]が存在する。

- [1]. 中野愛理,「カントの倫理的公共体概念を構成する三要素」, 三田哲学会(MIPS), オンライン開催, 2021 年 10 月 23 日。(研究発表)
- [2]. 中野愛理,「カントの倫理的公共体概念を構成する三要素」,『哲学』(149): 57–83, 三田哲学会。(2022)(査読付論文)
- [3]. 中野愛理,「カント倫理学はいかなる目的論的構想を必要とするか」,『倫理学年報』(70): 119–32, 日本倫理学会。(2021)(査読付論文)
- [4]. NAKANO, Airi. "The Distribution Problem in Kant's Doctrine of the Highest Good". In *Tetsugaku: International Journal of the Philosophical Association of Japan* 5, (2021): 110–25. Tokyo: The Philosophical Association of Japan. (査読付論文)

参考文献

- 中野愛理,「倫理的公共体は最高善であるか」,『哲学』(143): 85–111, 三田哲学会, 2019。
- Pogge, Thomas W. (1997). "Kant on Ends and the Meaning of Life." In *Reclaiming the History of Ethics: Essays for John Rawls*, edited by Andrews Reath, Barbara Herman and Christine M. Korsgaard, 361–87. Cambridge: Cambridge University Press.

以上